

1

鳴く
笛
商売

線路
血色
究明

2

うかつ
どんな
ウ

エ
ウ
ア
い
い
子

3

ひね
ひとり
散歩
ア

ア
体
ア
ウ

(3 順不同)

トレーニング
遺伝
生
ま

運動神経

2
1
1

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

1 「鳴」は終わりの四画が続け字にならないように気をつけよう。あやまって「鳥」を書いてはいけない。
2 「笛」は下のところを「田」としてはいけない。音読みを「テキ」といい、「汽笛」や「警笛」といったことばがある。
3 「商」は中の「口」を「古」としてはいけない。「敵」のへんのところとしつかり区別しよう。
4 「線」は「水」のところを五画で書いてはいけない。糸へんの上のところも三画できちんと書こう。
5 「血色」は血の色という意味だけでなく、顔の色やつやを表すことがある。「血」の一画目と二画目をつなげてはいけない。
6 「究明」は研究などによって不明であるものごとを明らかにすること。「究」の下のところを「丸」としてはいけない。

2

1 「うかつ」のようなことばは、普段から知らないことばを見たときに調べる習慣がないと身につけにくい。辞書で調べることがもちろんだが、近くの人にたずねることもよい勉強となる。知らないことがあるということを知識を増やすチャンスととらえて積極的に調べていこう。
2 さくらについて書かれていることから、「うつつうしい」という悪い評価につながることをさがしていく。あまり人には知られたくないのに大事になってしまふことがめんどうくさいのである。
3 ここでのため息が本文冒頭にすみれがついたため息と違う気持ちから出ていることをおさえておこう。どのような気持ちからため息をついたのかは——線②の直前にくわしく書かれているのでそれにあつたものを選ぶ。「いい子」であるさくらをうつつうしく思った自分をなげなく思っているのである。
4 (④) はいきおいよくソファに座る様子なのでエの「どしーんと」がはいる。(⑤) は自由な気持ちにゆつくりとひたっているところなのでウの「しみじみと」がはいる。(⑧) はおじいちやまが部屋で不意に立てた物音なのでアの「ガタツと」がはいる。
5 ——線⑥だけでなく、——線①の直前にもすみれが人に気を遣っている様子が書かれている。本心から人を気遣えるということとは、すみれが本人のいうようなひねくれていたり冷たくて卑怯だったりする子ではないということである。
6 ⑦の直後に「もう一度言ったとき」とあるので、ここにはすみれが前に言ったことばがはいると考えられる。この場面ですみれが言ったことばをたどると、四行前の「ひとりになりたくないあ」が見つかるだろう。
7 おじいちやまがどうする予定だったかはママの置き手紙に書いてあつた。ぱつと思ひ出せなくても、おじいちやまについてどう書かれていたかさがしながら本文をたどれば見つかっただろう。
8 ——線⑩の直前で「私です」と言い、その後の部分でも「早く長野の家に帰りたい」などと言っていることから、おじいちやまもひとりになりたいと思つていたことがわかる。また、すみれに本心を語っているところから孫が同じ気持ちでいたことを喜んでいても考えられるだろう。

3

1 ①は、直前の運動神経の良し悪しが遺伝するという内容をもとめるようなことが後に書かれているので「確かに」がはいる。②は、運動神経についてははじめに考えたいことを説明しようとしているので「まず」がはいる。⑦は、運動神経の差がどれだけ少なくても運動のできる・できないに差がつくということなので「いくら」がはいる。また、「いくら」と言えばその後「くても」ということがよく来ることもヒントになっただろう。
2 私たちが普段いつている「運動神経」とは体を動かすことの上手い下手を表しているので、「体性運動神経」のことであると考えられる。
3 「そうした」がさしているのは直前の「幼い頃から運動に取り組む機会が増える」とこと、「運動するにあたって、トップアスリートの中から、適切なアドバイスを受けられる」ことであるので、それに合った例を選ぶ。「幼い頃から運動に取り組む機会が増える」とことの例がアであり、「運動するにあたって、トップアスリートの親から、適切なアドバイスを受けられる」ことの例がウである。
4 「脳トレ」などトレーニングを縮めて「トレ」と言うことはよくある。省略された外来語を問う問題が出されることもあるので、身近なところから幅広い知識を身につけていこう。
5 まず——線⑥のはじめにある「これは」が何をさしているのかをはっきりさせよう。体形、特に身長は遺伝の影響を強く受けているということである。(Ⅱ) は遺伝の影響が強ければ何がうまらぬのか見当をつけてさがしていこう。
6 体性運動神経が発達する年頃に運動嫌いで自分から運動をせず、体形も運動に有利でなければ人よりも運動ができるようにならないということである。本文を通してそうであるが、運動が得意なことをよく「運動神経がよい」という言いかたであらわす。
2 本文には「頭の良し悪しが遺伝する印象」があるとしか書かれておらず、「頭の良し悪しは遺伝する」とははっきり書かれていないのでアは本文の内容にあわぬ。イは②の次の行に「脳が出した指令を体中に伝える神経系統」と書かれていることから、神経のしくみは体中に行きとどいていてと考えられるので正しい。ウは本文の最終段落に書かれているとおりであ